

## 家庭数

平成27年11月24日  
(2015年)

保護者の皆様へ

吹田市立吹田東小学校  
校長 大森 政彦

### 平成27年度 全国学力・学習状況調査の分析について

全国の児童・生徒の課題改善に向けた教育及び教育施策の成果と課題を検証し、児童・生徒の学力及び学習状況の改善を図るために、6年生を対象として、『全国学力・学習状況調査』を本年4月に実施しました。9月上旬には自らの学習到達状況を正しく把握するため、個人票とともに、問題用紙と正答例をあわせてお返ししました。吹田市教育委員会においても、今回実施した調査についての成果および課題・問題点を分析し、吹田市教育委員会のホームページを通じて発表しております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科は国語と算数また今年度より理科が加わりましたが、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

全国における調査を客観的に分析することにより、どのような指導形態がより効果的であるかをしっかりと見極め、学校全体あるいは小学校・中学校における連続した取組となれるよう、具体的な指導法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にして頂きますようお願い致します。

#### 1 結果についての項目

##### (1) 国語

###### 《概要》

###### 国語A(『知識』に関する問題)

全体的に全国値とほぼ同じで、漢字の読み書きについては、全国値を上回っているものもあった。

###### 国語B(『活用』に関する問題)

全体的に全国値を下回っている。また、無回答率の高さも課題としてあげられる。

###### 《各領域における成果と課題》

##### ○「話すこと・聞くことについて」

知識：全体的に全国値を下回っていた。特に「聞き方の説明として適切なものを選択する」ことについては、課題がある。

##### ○「書くことについて」

知識：「具体的な事例を挙げて説明する文章を書く」ことについては、概ねできている。

活用：全体的に全国値を下回っていた。特に、記述式で解答する問題に関しては、全国値を下回り、また、無回答率の高さも目立つ。特に、「文章の要旨をまとめて書く」問題や、「登場人物の気持ちの変化を想像し、その理由も書く」問題では全国値を下回っていた。また、無回答率の高さも課題となる。

##### ○「読むことについて」

知識：大阪府の正答率を上回っている。

活用：全体的に全国値を下回っていた。「文章の要旨を捉えて書く」問題、「声に出して読むときの工夫とその理由を想像する」問題では正答率も低く、無回答率の高いことも課題となっている。

##### ○「言語活動について」

知識：「漢字を書く」「漢字を読む」問題に関しては全国値を上回っているものもあった。

#### ◎国語科における成果と今後の指導改善点

- 漢字の読み書きについては一定の成果が見られる。今後とも、パソコンなどを活用して、基礎基本的な知識を楽しく身につけられるようにすると共に、漢字を使った熟語や慣用句などを学ぶ機会を増やし、読み書きの力にとどまらず語彙力が身につくようにする。
- 問いに対して、文章で記述し答えることを苦手としていることがうかがえる。授業においても、問いに対してなぜそのように考えたのか、根拠・理由を明確にして、文章で記述する機会を増やし、書く力を定着させていく。また、物語や、説明文の要旨をまとめて書くことを意識づけて行う。
- 無回答率の高さには問題文の長さに対する抵抗と、解答をやや長い文章で記述する必要があることに対する抵抗があると見られる。そのため、長文問題に取り組む機会を増やすと共に、短い文章で答えるような問いから、徐々に長い文章で答える問いへと段階を経た指導を計画的に行い、文書を記述して答えることに対する抵抗をなくしていく。
- 話すこと、聞くことについては課題が見られる。国語科や総合的な学習の時間で、自分の考えを述べる発表の場と相手の意図を考えて聞く場を多く設定する。その際に、どのようなことに気をつけて話したり、聞いたりするといったのかを大事にする視点を指導するなど、目的を持って「話す」「聞く」経験を多く積ませていく。また、金曜日の「聞き取り」の取り組みを今後とも継続し、話の内容を的確に押さえて聞く力を培っていく。
- 朝の読書の時間や図書室の時間を活かし、様々なジャンルの本にふれ、読書量を増やすとともに、長文の物語や説明文を読む機会を増やすように働きかける。

## (2) 算数

### 《概要》

#### 算数A (『知識』に関する問題)

数と計算」領域においては、おおむねできているが、「量と測定」・「図形」の領域では正答率が低く課題が見られる。

#### 算数B (『活用』に関する問題)

全国値を下回っている。また、無回答率が非常に高い。%を使った問題や説明を求められる問題に課題が多く見られる。

### 《各領域における成果と課題》

#### ○「数と計算」

知識：繰り上がりのある2位数の計算は全国値よりやや上回っているが、小数・分数の減法の計算ミスが多い。

活用：四捨五入を理解しておらず、キリのいい数字にしている誤答が目立った。説明問題では無回答も多く考えを書けていない。

#### ○「量と測定」

知識：角度の問題の正答率が低い。分度器の目盛りをきちんと読み取れていないのが課題である。

活用：考えを詳しく書くことについては慣れていないようで、無回答が目立った。また、見立てで単純な回答を書いているケースで誤答が目立った。

#### ○「図形」

知識：見取り図、展開図の読み取りに課題が見られる。

活用：文章を読み、図を見て一度考える必要のある問題については無回答率及び誤答が目立つ。知識の活用(考える)という行動まで至っていない。

#### ○「数量関係」

知識：グラフの読み取りについては、平均値を上回っている。

活用：%の計算については値引き・増量で、混乱しているようで増量分のみ、または値引き分のみを求めている誤答が目立った。

### ◎算数科における成果と今後の指導改善点

計算問題では、朝学習の取り組みの成果が出ている。継続して行っていくとともに、図形における基礎知識の定着も必要である。

活用ではほとんどの設問で無回答率が大阪府・全国平均の2.3倍となっている。じっくりと読み込む、じっくりと考えるという姿勢ができていないことと集中の継続が難しいことがあげられる。また、考えを言葉に表すことができていない、または練習不足ということが課題である。

単純な計算から応用問題へと、粘り強く考える練習を繰り返し、やれば解ける経験を積んでいく必要がある。

## (3) 理科

### 《概要》

#### (『知識』に関する問題)

全国値をやや下回っており、特に「物質」の領域では正答率が低かった。「生命」の領域では全国値とほぼ同じであった。

#### (『活用』に関する問題)

ほとんどの設問、特に「科学的思考・表現」の問題で全国値を下回っている。特に記述式の問題では課題が見られる。

### 《各領域における成果と課題》

#### ○「物質」

知識：実験器具の名称や適切な計り方の問題で全国値を下回っている。

活用：実験の予想や結果から水の温まり方を考察する問題で全国値を下回りグラフを基に考察し理由を書く問題では課題がある。

#### ○「エネルギー」

活用：振り子のきまりと電磁石のはたらきを組み合わせた問題で一部課題がある。

#### ○「生命」

知識：メダカや顕微鏡に関する問題では、全国値を上回っている。

活用：生物の成長に必要な養分や日光に関する問題では全国値を下回っており、特に理由を書く所では正答率が低くなっている。

#### ○「地球」

知識：月の形と場所や星座の動き方の問題では、全国値をやや下回っている。

活用：観察している方位に関する問題では、全国値と同様に正答率が低くなっている。

### ◎理科における成果と今後の指導改善点

- ・実験や観察の器具は目的や用途を明らかにし目的に応じて操作できる技能を習得できるように体験の場を増やし、継続的に指導する。
- ・月や星など実際に授業中に観察できないことは、空間を利用して立体的に確認したり連続写真・ICT機器を活用したりして全体で共有できるようにする。
- ・各単元で学習した内容が実際の自然現象とつながり、関心をもって科学的現象をとらえ、知識や経験を日常生活に適用できるように授業展開を工夫する。
- ・振り子と電磁石、金属の温まり方と水の温まり方など、複数の内容が重なった問題になると難しくなっている。各単元や学年を超えた単元をつなぐ意識した授業を組み立てる。
- ・実験結果や資料から考察する時間を十分確保し、空間の変化や時間の経過に着目して根拠や理由を示しながら、結論を導き出すことができるように記述や説明する場面を増やしていく。また、科学的な言葉や概念は名称のみの記憶ではなく事実や状況と名称を関連づけてとらえられるように指導する。

## 2 生活習慣や学習環境（児童アンケート）に関する調査結果

### 【学力調査、教科・学習について】

#### ○国語の勉強の意識を問う項目

- ・「国語の勉強は好きですか。」の項目では全国値より割合が下回っているが、「読書が好きですか。」の項目では、全国値とほぼ同じ割合となっている。
- ・自分の考えを話したり、書いたり、伝わるように工夫しているかを問う項目では全国値を下回っている。
- ・「今回の国語の問題について文章で答える問題にはどのように答えたか」を問う項目では、解答しなかったり解答を途中であきらめたりしたものがあつたと答えた割合が全国値を上回っている。

#### ○算数の勉強の意識を問う項目

- ・「算数の勉強は好きですか。」の項目では好きと答えた割合は低いが、「算数の勉強は大切ですか。」、「算数の授業で学習したことは将来役立つと思いますか。」の項目では、全国値をやや下回ってはいるものの高い割合で大切であると答えている。
- ・「算数の問題の解き方がわからないときはあきらめずにいろいろな方法を考えますか。」の項目では、全国値を下回っている。
- ・算数に関しては、難しいと感じるとあきらめてしまう傾向もあるが、わかる問題には意欲的に取り組もうとしている。

#### ○理科の勉強の意識を問う項目

- ・「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。」  
「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか。」の項目で全国値を下回って低い値となっており、生活の中の科学への関心の薄さがうかがえる。

### 【学習環境・生活環境について】

- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思っている割合は全国値同等に高い割合を示している。
- ・「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがあるか」「将来の夢や目標をもっていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」などの項目も、そう思っている児童が、全国値と同様に高い割合になっている。
- ・「いま住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目でも全国値を上回る割合で参加している。
- ・「朝食を食べていますか」「家で学校の宿題をしていますか」の項目では、全国値同等に高い割合でできている。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた割合が全国値より低くなっている。
- ・また、「テレビを見る時間」の数値は全国値より多くなっている。
- ・1日あたりの家での学習時間（普段・休みとも）全国値より低い値となっている。

## 3 今後の取り組み

本校では、基礎学力の定着を重点的な課題と捉えて取り組みを進めてまいりました。今年度は努力目標を『コミュニケーション力の育成』～伝え合う力を育もう～と設定し、考える力・発表する力の育成に向けて授業改善に取り組んでいます。子どもたちが主体的に学ぶ授業づくりや指導方法の工夫改善のため、今後も授業研究を充実していきます。自分の考えを文章に表したり、ペアやグループでの意見交流を行ったりして言語活動を一層充実させ、筋道を立てて自分の意見を表現できる力を育てていきます。

算数科においては、少人数指導を3年生から6年生で実施し、個に応じたきめ細かな指導の充実を図っているところです。また、例年行っている本校独自の算数診断テスト『力だめし』も、年2回全校児童（1年生は1回）に実施し、子どもたち一人ひとりの計算力の習得状況の実態把握を行っています。結果を分析し、傾向と対策を練り、弱点領域などを中心に、朝の学習の時間や放課後の補充の時間に反復学習を行い、基礎学力の定着をめざしていきます。なお、『力だめし』の個人結果につきましては、11月末の個人懇談会で保護者の皆様に返却を予定しています。

生活習慣や学習環境の結果を見ると、自分や友達の良さを実感したり、自分の意見をすすんで発表・発言したりする事に課題が見られました。これまでも自尊感情を高め、他者理解を深められるように各学年取り組んできましたが、引き続き話し合いや意見交流などの場面を設ける等して、子どもたちの自己肯定感を高めていけるような取り組みを進めていきたいと考えています。

学習習慣を身につけ学習内容を定着させるには、ご家庭の協力が必要です。『宿題をする』『テレビやゲームの時間を減らして読書や勉強をする』『明日の準備をする』など、自分から進んで計画的に学習できるようにご家庭でもお声かけや見守りをよろしくお願いします。月2回金曜日に開かれている放課後学習「東っ子スタディ」をご活用頂くのも効果的です。

これからも、学校や友だちの話をする機会を多く持っていただき、ご家庭と学校とが連携し合って、子どもたちの成長を見守っていききたいと思います。